



あたらしくはいった本 令和6年11月 貸出開始資料から

●小説 青い絵本(桜木紫乃/著) 雫(寺地はるな/著) 架空犯(東野圭吾/著) こぼれ落ちる欠片のために(本多孝好/著) 坂の中のまち(中島京子/著) 夜刑事(大沢在昌/著) 恋とか愛とかやさしさなら(一穂ミチ/著) 五葉のまつり(今村翔吾/著) 生き急ぐ(ブリジット・ジロー/著) 白猫、黒犬(ケリー・リンク/著)

●随筆・詩などの文学 もの想う時、ものを書く(山田詠美/著) 私の最後の羊が死んだ(河崎秋子/著) 父のコートと母の杖(一田憲子/著)

●その他の本 なぜ、あなたの料理はちょっとマズイのか?(小田真規子/著) 日帰りで登れる温泉百名山(飯出敏夫/著) 僕は猛禽類のお医者さん(齊藤慶輔/著) 名曲の曲名(茂木大輔/著)

「冬の朗読会」を開催

文芸作品を耳で味わうことで、読書の幅を広げてみませんか。気軽に参加してください。

日時 1月19日(日) 午後2時30分～午後4時(途中休憩あり)
場所 プラム・カルコア太宰府(中央公民館)3階 視聴覚室
対象者 大人 **料金** 無料 **定員** 40人程度
内容 小池真理子/著「赤いコートの女」(『銀座24の物語』より)、浅田次郎/著「告白」(『月下の恋人』より)ほか、冬の季節にちなむ短編小説やエッセイなどを取り上げる予定です。
講師 朗読紫苑の会(実演)

1月 としょかんカレンダー



日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
5	⑥	7	8	9	10	11
12	13	⑭	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	⑳	27	28	29	30	31

○印の日は、お休みです。

太宰府の文華と公文書雑だより 129

大鳥居氏と菊池氏・大内氏

ページID: 7241

15世紀半ば、太宰府天満宮の現地トップである留守職を務めた大鳥居氏の信善・信顕・信堯三兄弟による家督争いには、筑後国(現・福岡県南部)守護の菊池氏が関与していました。この争いについては昨年8月号で紹介しました。今回は大内氏の関与に注目してみます。

この文安年間(1444～49年)の大鳥居氏家督をめぐる争いは、菊池持朝の裁定もあり、信堯が家督を継承することになった。沈静化しますが、和解の際の取り決めが信堯が守らなかったことから信顕が反発し、家督争いが再燃します。この時、信顕は再び菊池氏を頼り、持朝の子・菊池為邦から直々に文書を受け取ることで、信顕に家督の地位が保証されました。

あくまで菊池氏は筑後国の守護であり、筑前国内に位置する太宰府天満宮の人事に直結する、大鳥居氏の家督争いを裁定することは、ある意味、越権行為ともいえることでした。そのため菊池氏は、友好関係にあり、かつ筑前国の守護となっていた大内氏に協力を仰ぎ、自らは大内氏の決定を承認する形をとったのでしよう。実際、これ以降の大鳥居氏に関わる権益を保証する主体は、いづれのケースでも大内氏となっています。大鳥居氏としても、天満宮での権益を守る上では、筑前守護の大内氏から権利の保証を受ける方がはるかに実用的であったでしょう。

一方で信顕はそれに先立って、筑前国(現・福岡県北西部)守護となった大内教弘を頼り、家督の保証を得ていました。実際、博多に信顕側・信堯側双方の証人を招集して、大内氏による裁判が行われていたようです。さらに、大内氏の筑前の代

以上のように、各武家権力の思惑の間で、天満宮をめぐる情勢は展開して行きました。そして、大鳥居氏ら天満宮の社家も、自らの権益を守るために、武家権力を利用していたのです。

元 太宰府市公文書館

兒玉 良平